

# タイトル

クラス：1  
学籍番号：123ABC  
氏名：苗字名前

## 1 いろいろと試す

### 1.1 シンタックスハイライト

ちゃんとできる。カスタマイズも楽。

test.html

```
<div class="theorem">
  <div class="theorem-heading"></div>

  数列  $\{a_k\}$  について考える。

</div>
```

インラインのコードは こんな感じ、aiueoになる

### 1.2 囲み枠

- 例 1.1. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。
- 例 1.2. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。
- 例 1.3. 

数列  $\{a_k\}$  について考える。

ちゃんと番号がインクリメントされている。

### 1.3 囲み枠付き

例 1.4.

数列  $\{a_k\}$  について考える。

### 1.4 番号付き数式

$$\sum_{k=m}^n a_k = a_m + a_{m+1} + \cdots + a_n \quad (1.1)$$

### 1.5 表のサンプル

表と図の区別は、`<figure>`要素のどこに`<figcaption>`要素があるのか

- 一つ目の場合：表として扱われる
- 一番最後の場合：図として扱われる

表 1 銅線の抵抗値の温度変化

温度 $t(^{\circ}\text{C})$	19.0	24	28	30	19.0	24	28	30
抵抗 $R_{ab}(\Omega)$	7.3	7.4	7.5	7.6	7.3	7.4	7.5	7.6
抵抗 $R(\Omega)$	7.2	7.3	7.4	7.5	7.2	7.3	7.4	7.5

### 1.6 図のサンプル

次のような記法を使用します。

```
![銅線の抵抗値の温度変化](assets/1_銅線.png){.fig #fig-Cu width=500}
```

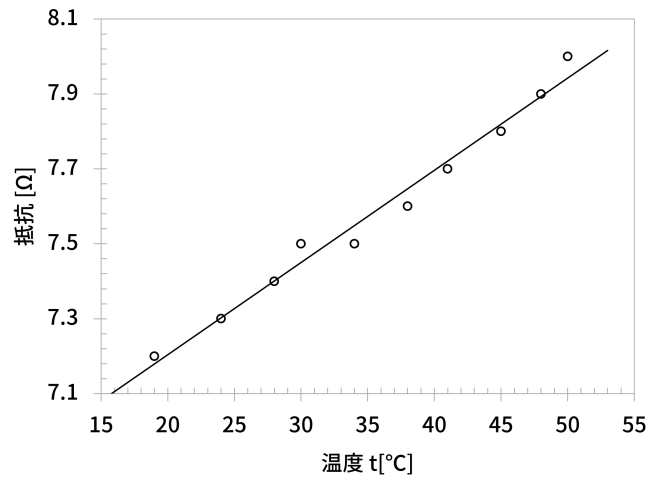


図1 銅線の抵抗値の温度変化

- `.fig`
  - 図のためのクラス
  - おそらく、`theme-academic`で定義されていたはず
- `#fig-Cu`
  - 図のid
  - 一意にする必要がある
  - 別の場所で「`[ ](#fig-Cu){.fig-ref}`」と書けば、「図1」のように呼び出せる
    - `.fig-ref`は、このリポジトリで定義してある
    - 図に振ったidを、aタグを介して取得しているらしい
    - 図の番号は自動で挿入される

## 1.7 番号付き数式続き

$$\sum_{k=1}^5 k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2 + 5^2 = 55 \quad (1.2)$$

## 2 段落2

章をまたぐと、数式や「例」の番号がリセットされる。

例 2.1.

数列  $\{a_k\}$  について考える。

$$\sum_{k=1}^5 k^2 = 1^2 + 2^2 + 3^2 + 4^2 + 5^2 = 55 \quad (2.1)$$